

# act

art,  
culture,  
tradition

22

March 2016

ひとの形に  
こころ重ねて。  
— 北の大地の人形浄瑠璃 —

[発行] 札幌市教育文化会館  
アクト第22号



Photographs by kazumasa wakamatsu

# 人形遣い

一步、足を踏みだす。ひとにとっては、ごくごくかんたんな動作でも、人形という媒体を通すだけで、その表現のハードルは一気に上がる。人形浄瑠璃は、そのハードルをさらに上げ、3人が一体となって遣う「三人遣い」という、世界でもまれな技法で人々を魅了する。たった一步、踏み出すだけで、役の心情、背景、時には雪を歩く重たげな足取りさえもが人形をとおして見えてくる。技術とところをひとつにかさねる。それが、人形遣い。



# 喜

五穀豊穰を祈る、ほがらかな舞



「寿式三番叟」(ことぶきしきさんぼう)  
三番叟

「伊達娘恋緋鹿子」(だてむすめこいのひがのこ)  
八百屋お七



# 怒

恋しい人を救うため、禁忌を犯す

「東海道中膝栗毛」(とうかいどうちゅうひざくりげ)  
弥次郎兵衛



# 楽

シュールな笑いで道中をゆく

遊女の恋の逃避行

# 哀

「傾城恋飛脚」(けいせいこいびやく)  
梅川



安土桃山時代(16世紀末)に成立した、人形浄瑠璃。大阪の地で発達を遂げ全国に広まりましたが、北海道に「座」として根付くことはありませんでした。そんな古典芸能を、北の大地に根付かせつつある人達がいます。人形浄瑠璃の魅力を、どさんこ人形遣いのみなさんに魅せていただきました。

# ひとの形に こころ重ねて。

北の大地の人形浄瑠璃

## 【インタビュー】 INTERVIEW

北海道で唯一、人形浄瑠璃の公演・講習会を行う  
さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座。その座頭である  
矢吹英孝さんに人形浄瑠璃の魅力をうかがいました。

### 不自由のなかにある自由さが、 観客を舞台に惹きこんでいく。

人形浄瑠璃の講習会がやまびこ座で始まったのは21年前、平成6年のことです。それまで、北海道で人形浄瑠璃を観たり触れたりする場はほとんどありませんでした。この起りは、やまびこ座のオープン時に寄贈された浄瑠璃の人形を実際に舞台に立たせたい、という前館長の想いでした。この人形は展示用ではないのでいつか舞台で、という寄贈者の希望を叶えたかったんですね。最初はプロの人形遣いを招いて、舞台を上演してもらくらの話でしたが、たまたまご縁があって、現在も指導してくださっている「八王子車人形西川古柳座」の西川古柳師匠に三人遣いを教えていただけることになりました。当時は、この講習会がこんなにも続くとは誰も思っていなかったでしょう。私も企画から関わっていましたが、最初は、現代人形劇の勉強になるだろう、くらいの気持ちでした。それが古典芸能というものに触れていくうちに、こんなにも面白いものだったのかと、すっかり惹きこまれてしまいました。三人遣いは3人の息を合わせる為手間も

稽古の時間もかかります。けれど、それが可能になった時、人間以上に人間の感情を表現することができるのです。動くはずのないものが、まるで魂を持ったように動き出すことで、観客はぐっと物語世界に惹きこまれていく。歌舞伎は自分の好きな役者を観て楽しむことも多いと思いますが、人形浄瑠璃の場合は、人間にとって普遍性のある感情や人間関係が描かれており、物語そのものを楽しみ、より深く感じ取れるように作られているんですね。それを義太夫、三味線、人形遣いを合わせて表現する、とても贅沢な舞台なんです。人形をつかった劇というのは、ある意味とても不自由な表現です。物を取るという動作一つも、それらしく見えるように準備や稽古が必要です。けれど、その不自由さの中で、生身の人間では表せない、人形ならではの表現を生みだし、逆にそれがよりリアルに見えてくる。それこそが人形で表現するということの魅力ではないでしょうか。北海道では、人形浄瑠璃はまだまだなじみのな

い芸能です。けれど、その分古典としてではなく、子どもたちにとってはまるで新しいスポーツやゲームのような面白さを感じられるんじゃないかと思っています。古典は守りつつ、新しい芸能がここから生まれて欲しいな、と期待しています。

#### PROFILE

#### 矢吹 英孝

Hidetaka Yabuki

札幌市こどもの劇場 やまびこ座  
札幌市こども人形劇場 こぐま座  
館長  
さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 代表

北海道教育大学 函館校在学中からサークルにて人形劇を始める。卒業後、やまびこ座・こぐま座に就き、現在は館長として人形劇・人形浄瑠璃の二刀流で活動を続ける。

[あしり座ホームページ]  
<http://ashiriza.blogspot.com>

act  
art & culture tradition  
22

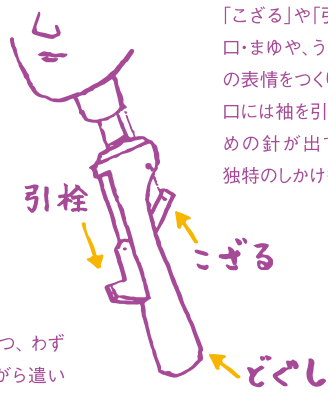
### ときに、人間以上に人間らしい 人形の仕組み、 おみせします。

ドキリとさせる妖艶なしぐさ、涙をさそうときのふるえ。そんな様々な表現はどのように作りだされるのか？ 傾城阿波の鳴門のお弓さんにお手伝いいただき、その仕組みの一端をご紹介します。

## 首 [かしら]

主遣いが担当。

胸串を左手1本で支えつつ、わずかな首の角度を作りながら遣います。人形の顔は中間表情という無味な表情に作られており、微妙な角度の変化で喜怒哀楽を表現するのは至難の業。

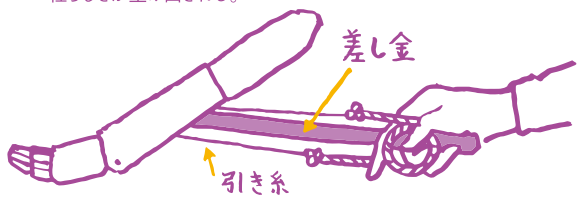


「こざる」や「引栓」で目・口・まゆや、うなずきなどの表情をつくりだす。口には袖を引っ掛けるための針が出ているなど独特のしかけも。

## 手 [て]

右手は主遣いが、左手は左遣いが担当。

女性の手だけ指の関節と手首の3段階で曲る仕組みになっている。右と左、息の合った動きと、指先にまで緊張感の走る優美な動きで女性らしさが生み出される。



「差し金」左手を操作する棒。引き糸の引き具合の強弱のみで関節を動かし、繊細な指先の動きを出す。

## 足 [あし]

足遣いが担当。

女性には基本足が付いておらず、着物の裾を持って、あたかも足や膝があるようにみせる。足取りで、役の心情や生まれ育った背景などを表現するには、長い修業が必要である。

### 三人遣いは、 難しいからおもしろい。

人形を遣う舞台は世界に数あれど、1体を3人で遣うのは、日本だけ。そんな特殊な三人遣いは、どんな仕組みになっているのでしょうか。

#### 主遣い(おもづかい)

人形遣いのリーダー。左手だけで10kg近い人形を支えることもある。人形の役どころや性格などを熟知し、左遣い、足遣いに無言の合図で伝える。物語への造詣や表現の深さなど、主遣いの修業は一生涯の、といわれている。

#### 足遣い(あしづかい)

人形の両足を操る。最初はこの足遣いから始め、10年以上の経験をつむとされている。右腕を主遣いの腰などに当て、合図を受け取り、瞬時に動かす。基本の型はあるが、その時々で動きは変わるため、即興の力も必要。

#### 左遣い(ひだりづかい)

左手を担当。足遣いを経験後、またここで10年の修業をつむといわれる。左手も遣いつつ、小道具などの出し入れもするため、舞台の流れを把握し、客観的な視野も求められる。

### どうして三人遣い？

人形浄瑠璃の動きの特徴として、直線的な動きが少ないことがあげられます。物を指す時もまっすぐに手を伸ばさず、半円を描くような優美な動きで操ります。義太夫の節回しに合わせた動きではありませんが、ひとつひとつの動作が舞うようなしぐさとなり、人形浄瑠璃という舞台芸術の美しさの由縁となります。そんな繊細な動きを生み出すには、首、手、足とそれぞれに使い分ける必要があり、三人遣いという技法が必要不可欠になってくるのです。

### 人形浄瑠璃を習ってみよう。

日本の伝統的な人形芝居「人形浄瑠璃」を学ぶ、道内唯一の講習会です。

#### 人形浄瑠璃講習会

【日程】6月7日(火)～12月16日(金) 全16回  
発表会/(ユースクラス)12月17日(土)・(一般)12月18日(日)  
【講師】西川古柳(八王子車人形西川古柳座五代目家元)  
さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座  
【参加費】(ユースクラス) (一般講習会)  
対象/中学生・高校生 対象/18歳以上  
3,000円(年会費) 10,000円(年会費)  
【会場】札幌市こどもの劇場やまびこ座/札幌市東区北27条東15丁目  
【申込】5月11日(水)より 電話受付  
【お問い合わせ】やまびこ座 TEL.011-723-5911 (受付時間 9:00～17:00 ※月曜日休館)



### 人形浄瑠璃は「三業」の なせる芸術

#### 太夫

物語や登場人物のセリフを語る、いわばストーリーテラー。つい人形ばかりに目がいってしまいがちだが、実は太夫は人形浄瑠璃の要で、指揮者のような存在。義太夫節という節回しで情感たっぷりに語り、いくつもの役柄を演じる。マイクはほとんど使わず、長い演目は太夫が交代しておこなう。

太夫・三味線・人形遣い。この3つの技が絶妙にからみあうことで、ライブ感たっぷりの人形浄瑠璃が生まれます。さて、その太夫と三味線とは？

#### 三味線

太夫と対になり、情景や喜怒哀楽を三味線一本で表現する。実際に声には出さないが、太夫の語りによく合わせられるよう、太夫が語る言葉も暗記しているという。三味線のなかでも一番棒が太く、糸も丈夫な「太棒」を使う。義太夫節を弾きこなすと、かなり楽器を消耗するため、胴の皮は一公演ごとに張り替えるという。